

所属・氏名 ( 薬学部 薬学科 氏名 : 平尾 雅代 )

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Fatty acid 2-hydroxylase (FA2H) as a stimulatory molecule responsible for breast cancer cell migration	共著	2020 年 8 月	<b>Biochem. Biophys. Res. Commun.</b> 531: pp.215-222 Elsevier	FA2H がエストロゲン受容体 $\alpha$ の発現状態とは関係なく、乳がん細胞の遊走を促進する因子であることを示した。(総ページ数: 8 頁) (平尾(鈴木)雅代、古賀貴之、境絃樹、小林隆信、石井祐次、宮澤宏、瀧口益史、杉原成美、戸田晶久、大原正裕、竹田修三) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
2 (学術論文) Metalloestrogenic effects of cadmium are absent in long-term estrogen-deprived MCF-7 cells: Evidence for the involvement of constitutively activated estrogen receptor $\alpha$ and very low expression of G protein-coupled estrogen receptor 1. 《筆頭論文》	共著	2019 年 11 月	<b>Toxicol. Lett.</b> 319: pp.22-30 Elsevier	閉経後乳がん細胞モデル LTED 細胞 では Cd の標的である 1) エストロゲン受容体 $\alpha$ がリガンド非依存的に活性化していること、及び 2) 膜型エストロゲン受容体の GPER1 の発現が顕著に低下していることを示した。(総ページ数: 9 頁) (平尾(鈴木)雅代、竹田修三、兒玉安史、瀧口益史、戸田晶久、大原正裕) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
3 (学術論文) Repeated exposure to 4-methyl-2,4-bis(4-hydroxyphenyl)pent-1-ene (MBP), an active metabolite of bisphenol A, aggressively stimulates breast cancer cell growth in an estrogen receptor $\beta$ (ER $\beta$ )-dependent manner. 《筆頭論文》	共著	2018 年 12 月	<b>Mol. Pharmacol.</b> 95: pp.260-268 ASPET Journal	ビスフェノール A の活性代謝物である MBP の反復曝露が、エストロゲン受容体 $\alpha$ の発現を抑制し、顕在化したエストロゲン受容体 $\beta$ の活性化を介して乳がん細胞の増殖を促進することを示した。(総ページ数: 9 頁) (平尾(鈴木)雅代、竹田修三、奥田勝博、瀧口益史、吉原新一) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
4 (学術論文) $\Delta^9$ -Tetrahydrocannabinol upregulates fatty acid 2-hydroxylase (FA2H) via PPAR $\alpha$ induction: a possible evidence for the cancellation of PPAR $\beta/\delta$ -mediated inhibition of PPAR $\alpha$ in MDA-MB-231 cells. 《筆頭論文》	共著	2018 年 12 月	<b>Arch. Biochem. Biophys.</b> 662: pp.219-225 Elsevier	$\Delta^9$ -Tetrahydrocannabinol が PPAR $\beta/\delta$ による PPAR $\alpha$ の抑制を解除することにより、PPAR $\alpha$ の発現を誘導し、FA2H の発現を増加させることを示した。(総ページ数: 7 頁) (平尾(鈴木)雅代、竹田修三、渡辺和人、瀧口益史、荒牧弘範) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
5 (学術論文) Cadmium-induced malignant transformation of rat liver cells: Potential key role and regulatory mechanism of altered apolipoprotein E expression in enhanced invasiveness 《筆頭論文》	共著	2017 年 3 月	<b>Toxicology</b> 382: pp.16-23 Elsevier	がん細胞浸潤能亢進の標的遺伝子として ApoE を見だし、その機構として ApoE の発現調節領域の高メチル化による ApoE の発現抑制を介していることを示した。(総ページ数: 8 頁) (鈴木雅代、竹田修三、寺岡-西谷典子、山縣あかね、田中貴弘、佐々木莉佳、安田菜月、小田蒔子、岡野達慈、山平和博、中村優太、小林隆信、喜納克仁、宮澤宏、Waalkes M.P.、瀧口益史) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。